

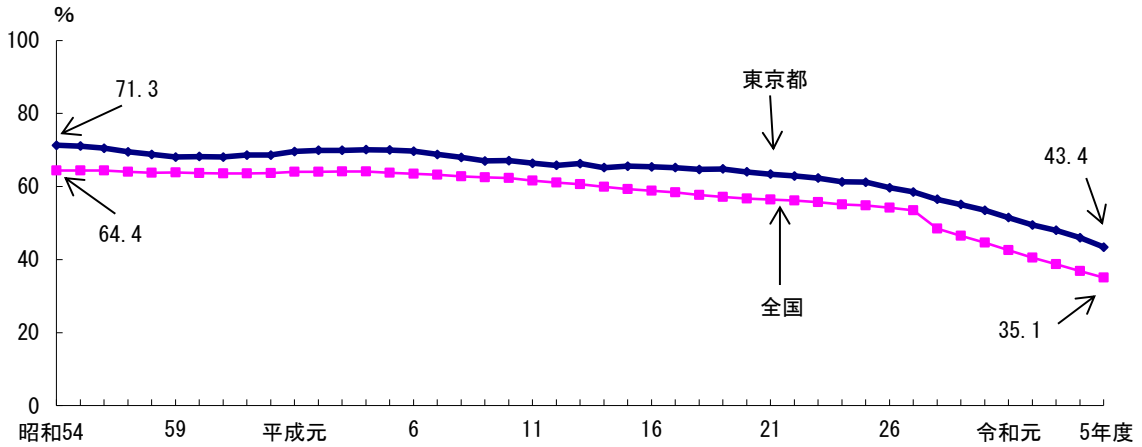
東京都と全国との比較

1 幼稚園

- ① 小学校及び義務教育学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の割合について、昭和54年度からの推移をみると、東京都の割合はすべての年度で全国を上回っている。
- ② 令和5年度の東京都の割合は43.4%で、全国との差は8.3ポイントとなった。

(全国との比較 図1、付表I 2-3)

全国との比較 図1 小学校及び義務教育学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の割合の比較



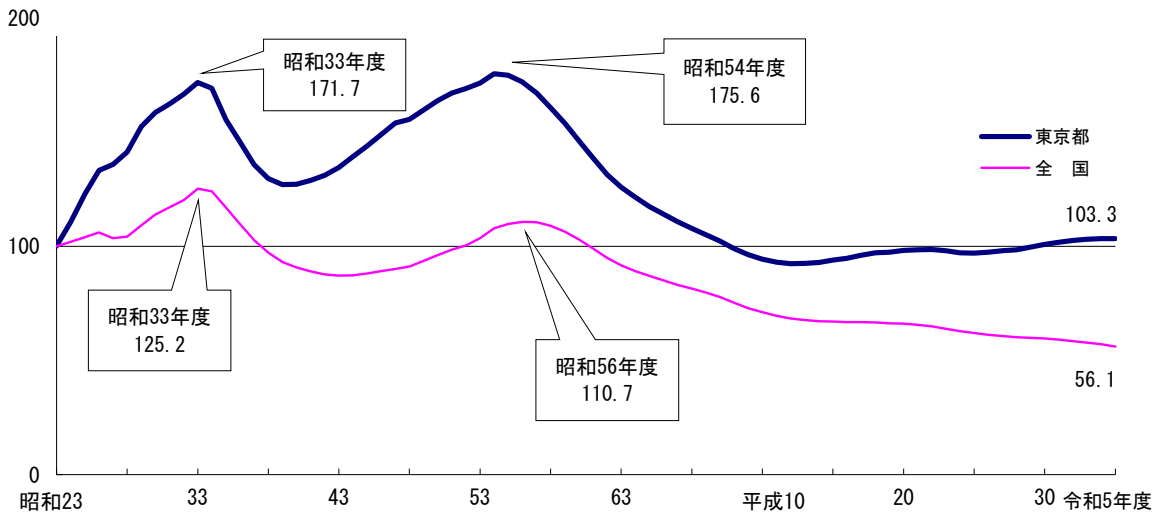
注1) 幼稚園修了者数は各年3月修了者、小学校及び義務教育学校第1学年児童数は各年5月1日在籍者
 2) 平成27年度以前は、小学校第1学年児童数のみ

2 小学校

- ① 小学校児童数について昭和23年度を100とした指数でみると、第1次ベビーブームによる小学校児童数の東京都のピークは、全国と同じ昭和33年度で171.7となっており、全国の125.2を46.5ポイント上回っていた。
- ② 第2次ベビーブームによる小学校児童数のピークをみると、東京都は昭和54年度で175.6となっており、全国より2年早くピークを迎えている。
- ③ 令和5年度の東京都の指数は、103.3で、全国との差は47.2ポイントとなった。

(全国との比較 図2、付表I 2-4)

全国との比較 図2 小学校児童数の比較 (昭和23年度 = 指数100)



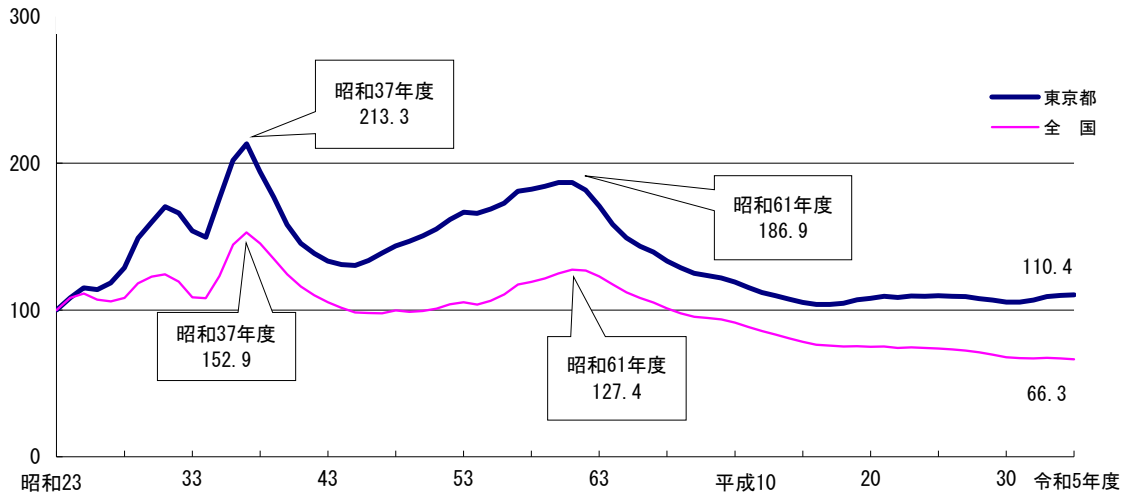
注) 昭和23年度の児童数を100として各年度の児童数を指数化している。

3 中学校

- ① 中学校生徒数について昭和23年度を100とした指数で見ると、第1次ベビーブームによる中学校生徒数の東京都のピークは、全国と同じ昭和37年度で213.3となっており、全国の152.9を60.4ポイント上回っていた。
- ② 第2次ベビーブームによる中学校生徒数のピークをみると、東京都は全国と同じ昭和61年度で186.9となっており、第1次ベビーブームによる中学校生徒数のピークと比べ26.4ポイント下回っていた。
- ③ 令和5年度の東京都の指数は、110.4で、全国との差は44.1ポイントとなった。

(全国との比較 図3、付表I 2-4)

全国との比較 図3 中学校生徒数の比較 (昭和23年度 = 指数100)



注) 昭和23年度の生徒数を100として各年度の生徒数を指数化している。

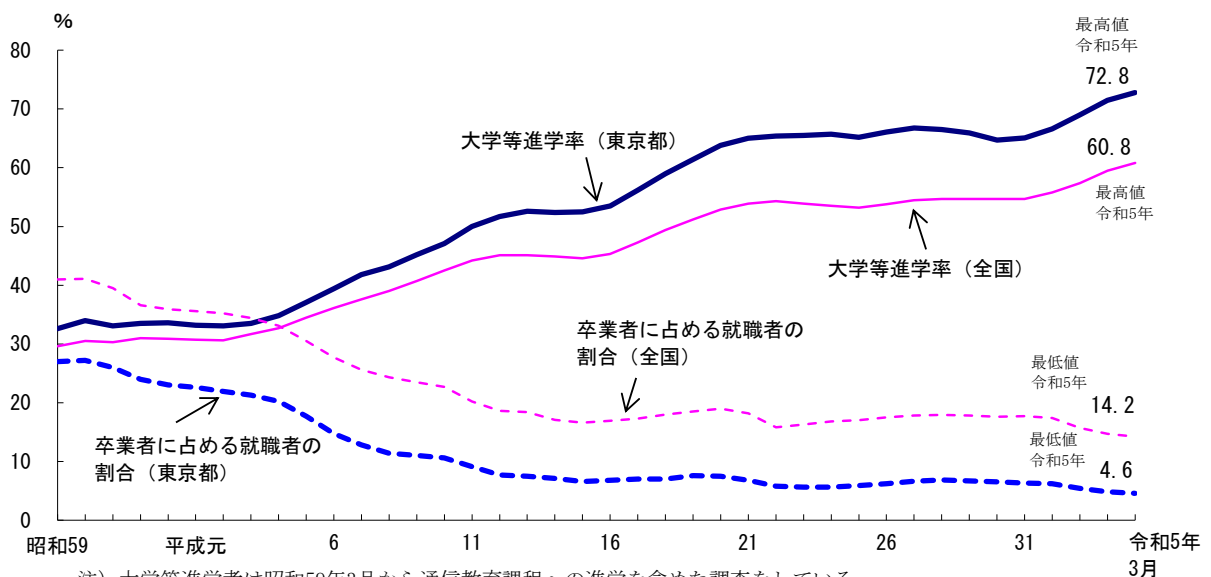
4 高等学校 (全日制・定時制)

(1) 卒業者の大学等進学率・卒業者に占める就職者の割合の推移

- ① 高等学校 (全日制・定時制) 卒業者の大学等進学率をみると、東京都は平成27年3月以降低下していたが、平成31年3月から上昇に転じ、令和5年3月は72.8%で最も高くなった。全国も令和5年3月の60.8%が最も高くなっている。令和5年3月の東京都の大学等進学率は全国を12.0ポイント上回った。
- ② 卒業者に占める就職者の割合をみると、東京都、全国ともに令和5年3月が最も低く、東京都は4.6%、全国は14.2%となった。令和5年3月の東京都の就職者の割合は全国を9.6ポイント下回った。

(全国との比較 図4、付表I 2-2、2-7)

全国との比較 図4 高等学校卒業者の大学等進学率及び卒業者に占める就職者の割合の比較



注) 大学等進学率は昭和59年3月から通信教育課程への進学を含めた調査をしている。

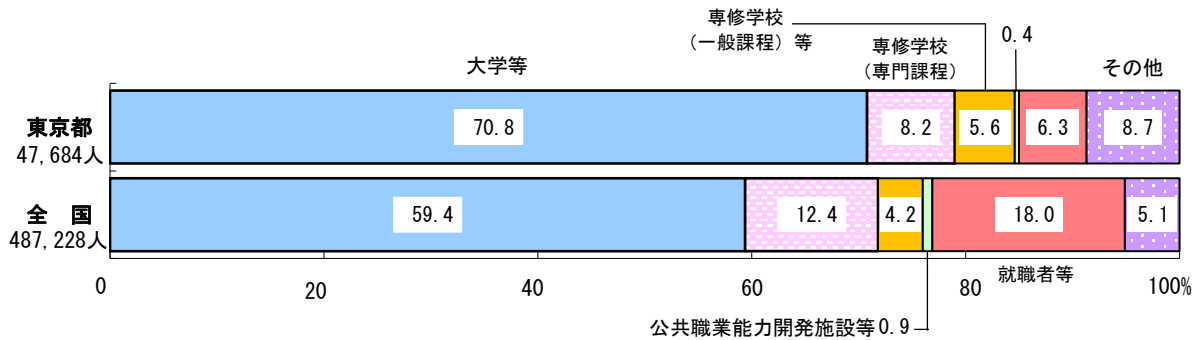
(2) 男女別にみた状況別卒業者の割合

① 高等学校（全日制・定時制）卒業者について、男子の状況別卒業者の割合をみると、東京都では、大学等進学者が70.8%で最も多く、全国を11.4ポイント上回っている。次いで、その他8.7%、専修学校（専門課程）進学者8.2%、就職者等6.3%、専修学校（一般課程）等入学者5.6%となっている。

一方全国は、大学等進学者59.4%に次いで就職者等が18.0%で多く、東京都を11.7ポイント上回っている。次いで専修学校（専門課程）進学者12.4%、その他5.1%、専修学校（一般課程）等入学者4.2%となっている。

(全国との比較 図5)

全国との比較 図5 状況別卒業者の割合（令和5年3月卒業者 男）

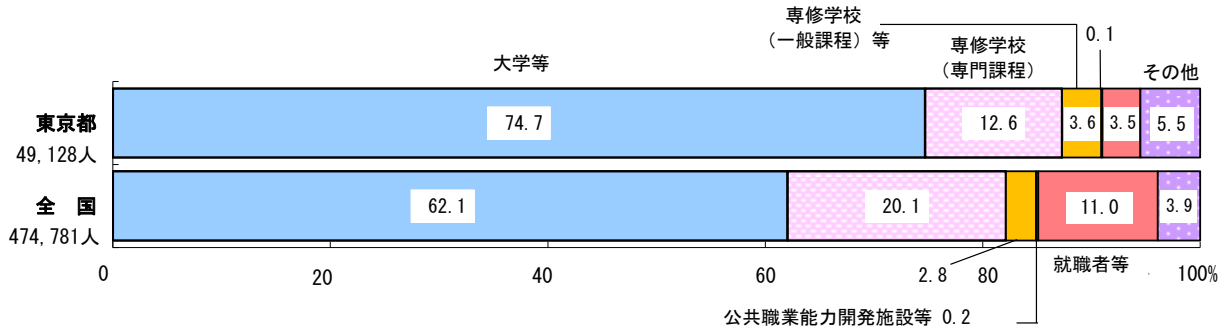


② 高等学校（全日制・定時制）卒業者について、女子の状況別卒業者の割合をみると、東京都では、大学等進学者が74.7%で最も多く、全国を12.6ポイント上回っている。次いで、専修学校（専門課程）進学者12.6%、その他5.5%、専修学校（一般課程）等入学者3.6%、就職者等3.5%となっている。

一方全国は、大学等進学者62.1%に次いで専修学校（専門課程）進学者が20.1%、就職者等11.0%、その他3.9%、専修学校（一般課程）等入学者2.8%となっている。

(全国との比較 図6)

全国との比較 図6 状況別卒業者の割合（令和5年3月卒業者 女）



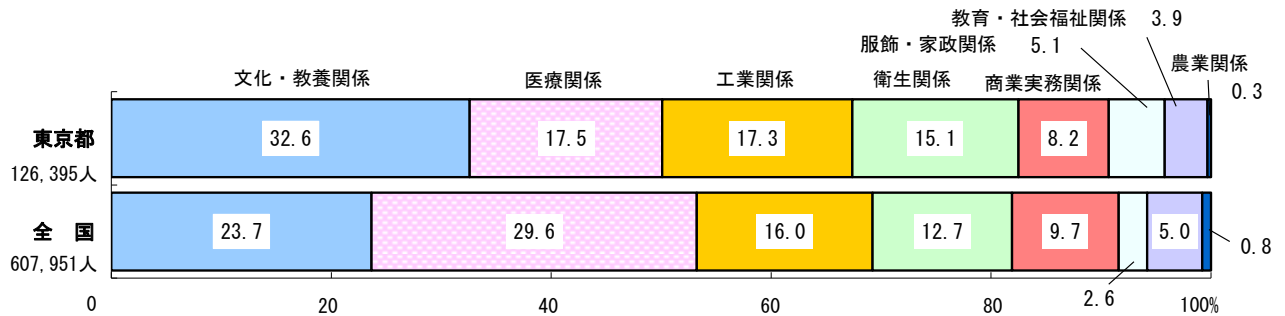
注1) 「大学等進学者」には大学・短大の別科、高等学校専攻科、特別支援学校高等部専攻科への進学者を含む。
 注2) 「専修学校（一般課程）等入学者」とは、専修学校（一般課程）及び各種学校へ入学した者である。
 注3) 「就職者等」には、常用労働者のうち有期雇用労働者及び臨時労働者を含み、進学しながら就職している者を含まない。
 注4) 「その他」とは、家事手伝い、外国の大学等に入学した者、各項目に該当せず進路が未定の者と不詳・死亡の合計である。

5 専修学校

- 令和5年度の東京都の専修学校生徒数は126,395人で、全国の生徒数607,951人の20.8%を占めている。
- 専修学校生徒数を分野別の構成比で見ると、東京都は「文化・教養関係」が32.6%で最も多く、全国の23.7%を8.9ポイント上回った。一方、「医療関係」は17.5%で、全国の29.6%を12.1ポイント下回っている。

(全国との比較 図7、付表I 2-6)

全国との比較 図7 専修学校生徒数の分野別構成比の比較 (令和5年度)



6 各種学校

- 令和5年度の東京都の各種学校生徒数は24,280人で、全国の生徒数108,171人の22.5%を占めている。
- 各種学校生徒数を分野別の構成比で見ると、東京都は「その他(外国人学校)」が62.7%、「文化・教養関係」が31.1%となっており、この2つの分野で全体の9割を超えている。全国は「その他(自動車操縦)」が30.2%で最も多く、「その他(外国人学校)」が29.2%、「文化・教養関係」が18.9%、「その他(予備校)」が10.9%の順となっている。

(全国との比較 図8、付表I 2-6)

全国との比較 図8 各種学校生徒数の分野別構成比の比較 (令和5年度)

